

平成30年度 自己評価書・学校関係者評価書

4 ■ そう思う 3 ■ どちらかといえば、そう思う 2 ■ どちらかといえば、そう思わない 1 ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 友達への思いやり	3 道徳・心の教育の充実
<p>学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。</p>	<p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p>	<p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)</p>
<p>【学校から】1に関しての評価を昨年度と比較すると、「4」「3」合わせた割合は、生徒の回答は比べ上昇しており、保護者、生徒の80%強が「できている」と感じている。2に関しては、保護者、生徒、教職員全てにおいてほぼ100%に近い肯定的な意見をいただいております、お互いを尊重しあえる、支持的関係づくりがおおむねできているといえる。3では、「4」「3」と回答した割合が、保護者、教職員ともに90%を超えているが、保護者の約7%が「2」「1」と回答しており、道徳教育をはじめ日常のあらゆる場面での心の教育をさらに推進し、また、公開授業や便り等を通じて学校の取り組みを伝える等の工夫が必要であるといえる。</p>		

②確かな学力を育む教育の推進

4 意欲的な学習態度	5 授業力向上	6 ICT活用
<p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p>	<p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<p>先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。</p>
<p>【学校から】4に関して、生徒自身は意欲的に取り組んでいると思っている生徒が90%以上あり、良い傾向にある。教職員の回答には「4」がなく、「3」が大半である。概ね良好と言えるが、教職員と生徒の意識に差があり、生徒のさらなる意識の高揚が図れるような授業実践が必要といえる。5に関しては概ね良好と評価している生徒、保護者も多いが、生徒の20%弱が「2」「1」と回答している。生徒の興味関心をはかり、生徒にとって魅力かつより分かり易い授業づくりに努めていかなければならない。6に関しては、電子黒板の導入や複数教科での積極的な活用もあり、90%以上の生徒が「そう思う」と感じており、今後さらに有効に活用する研究を推進していく。ただ、保護者の20%近くが「3」と回答しており、学校の日頃の取り組み等、授業参観や便り等を通じて、積極的に保護者や地域に対して発信していきたい。</p>		

③健やかな体を育む教育の推進

7 健康づくり
<p>子どもは、好き嫌いをなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。</p>
<p>【学校から】昨年度と比べ、生徒の「3」「4」の割合が増加しており、健やかな体づくりに対する意識の高まりがみられる。今後も生徒への啓発及び家庭と連携しながら健康づくりを推進していく。</p>

①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

8 児童生徒理解	9 いじめや問題への対応	②特別支援教育の推進
<p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとして努めていると思いますか。</p>	<p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p>	<p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>
<p>【学校から】8に関して、特に保護者の回答で、昨年に比べ「4」「3」の割合が大きく向上しており、約90%が肯定的にとらえられている。担任をはじめ、組織での日頃の取り組みが結果に反映しているものと思われる。9に関しては、教職員は生徒一人一人と向き合い、きずなアンケート等を活用した教育相談を随時行っている。いじめや問題に対しても可能な限り早期かつ組織的な対応を行っている。保護者・生徒と教職員の意識にやや差があるが、今後も学校はアンテナを高くはり、早期発見、迅速な初期対応、そして予防的活動の充実につとめていく。また、家庭との連携も密にとりながら、学校の日頃の取り組み等についても様々な機会において周知していく。10については、支援が必要となる子どもの教育においては、校内で研修を行い、インクルーシブ教育にも力をいれており、約90%は肯定的な意見である。今後はそのような校内での取組を保護者や地域へと積極的に発信するなど、さらに充実させていきたい。</p>		

①子どもたちの身近な安全対策の充実

②最適な学習環境の整備

11 安全と事故防止

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。

保護者
生徒
教職員

0% 20% 40% 60% 80% 100%

【学校から】保護者、生徒については90%以上が肯定的に回答しており、一昨年度の熊本地震を受け、その後の危険防止に関する啓発等をしっかり受け止め、避難訓練等に真剣に取り組んでいる結果と考えられる。今後もより実効的な避難訓練や防災教育に取り組んでいく。

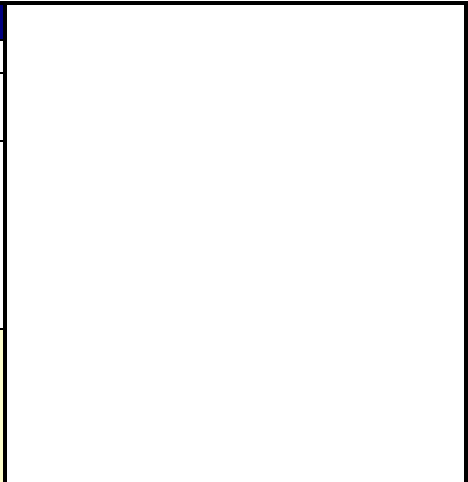
12 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

保護者
生徒
教職員

0% 20% 40% 60% 80% 100%

【学校から】安全点検を毎月実施し、整備が必要な場合は、可能な限り迅速な対応を心がけている。また、危険が想定される場所等に関しては、日頃から生徒への周知を図ったり、標示等の工夫を行ったりして機事故防止に努めている。



③家庭・地域社会との連携強化

13 教育方針・目標の理解

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。

保護者
生徒
教職員

0% 20% 40% 60% 80% 100%

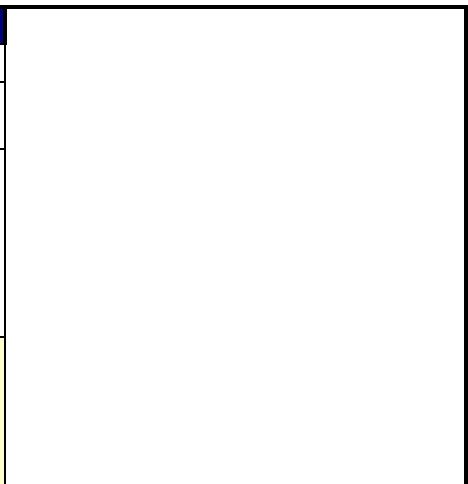
【学校から】13に関しては、昨年度と比較し、保護者と生徒の「3」「4」の割合が増加している。集会等を通じて、学校長をはじめ、各担当などからより分かりやすく伝えていることが結果につながっていると思われる。また、今年度リニューアルした学校ホームページを積極的に活用し、様々な情報発信を行っていることも有効となっている。今後も、様々な機会を捉えて学校の教育方針の幅広い啓発・普及を行っていく。14に関しては、保護者の「2」「1」の割合が20%ほどあり、教職員と意識の違いが見られる。生徒は学校と保護者、そして地域がいっしょになって育てていく、という視点に立ち、しっかり連携しながら教育活動を充実させていく。

14 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

保護者
生徒
教職員

0% 20% 40% 60% 80% 100%



来年度の具体的な取り組みについて

- 本校校是の「再び帰らぬ時なれば このひと時に命燃やさん」を常に意識した学校経営を心がける。特に、校是が示す「時間の大切さ」を毎時間の授業、学校行事等で意識させ、全校生徒と全教師が一体となった教育活動を実践していく。
- すべての生徒が、学校生活の中で自己有用感を意識できる機会を設け、一人一人が輝く学校生活の実現を可能とする学校経営を目指す。
- 思いやりと正義と貫く心を持つ生徒の育成を推進するため、学校行事や生徒会活動において、生徒主体の活動を積極的に取り入れるとともに、生徒と生徒の関りを深める機会を積極的に増やす。
- 確かな学力の向上については、本校の今後の重点課題の一つである。課題の解決に向けて、各教科の授業でめあてを明確化し、確実な学習の振り返りを実践することで基礎学力の定着を図っていく。また、授業改革を心がけ、生徒の意見が毎時間積み重なる授業展開を意識した探求型の授業を確立する。また、電子黒板をはじめとするICT機器を有効に活用し、より分かりやすく魅力ある授業を構築し、確かな学力向上へとつなげていく。
- 全学的に不登校及び不登校傾向の生徒が増加の傾向にある。本校においても同様の傾向がある。日々の学校生活において、生徒のコミュニケーション力を高める取り組みや、支持的風土、集団づくりについての組織的な取り組みを積極的に実践し、生徒が自己肯定感・自己有用感を持ち、行きたくなる学校づくりを目指す。
- 市教委の働き方改革「時間創造プロジェクト」を受け、改革を進めているところである。教職員の時間外勤務の短縮や負担軽減という視点にあわせて、限られた時間でより効果的に成果を上げるという視点で研究も推進していきたい。

学校関係者評価

- 生徒たちは優しく素直でよいと思う。ただ、お互いにしっかりと切磋琢磨して成長していくことや困難にもめげず立ち向かっていく強さも欲しいところである。
- エアコン設置をはじめ、学校の設備がより充実してきてよい。トイレは和式が多いようだが、生徒たちは日頃家庭等では洋式に慣れているところもあるため、できれば学校においても洋式トイレを増やしたらどうか。
- 校務支援システムの導入や、留守番電話の設置など、働き方改革が推進されておりよいと思う。留守番電話においては、17時に切り替わるのは、生徒の下校時の事故など、万が一の連絡等を考慮すれば少々早くはないか。
- 道徳の授業を参観して、以前のスタイルとだいぶ変わってきている印象を受けた。生徒が自分の考えを積極的に発言し、仲間と議論する場面等もあり、とても良いと思う。授業に対する教師の工夫も見られた。ICT（電子黒板等）の導入、活用も進められており、効果が期待できる。
- 授業でチームティーチングや少人数の場面を参観したが、とても効果的だと思う。可能であれば多くの教科で実践してもらいたい。
- 陸上やロボコン等で全国大会に出場する生徒がいて素晴らしい。他の生徒たちもそのような生徒から刺激を受け、学校全体の活性化につながってほしい。

